



パイル織物のまち 高野口

# パイル織物 DAYORI

令和8年1月吉日

第 40 号

発行者

紀州繊維工業協同組合

広報委員会

和歌山県橋本市高野口町名倉1067

TEL 0736-42-3113(代) FAX 0736-42-2054

E-mail: kisyuori@zeus.eonet.ne.jp

https://www.koyaguchi.com

## 新年のご挨拶

紀州繊維工業協同組合  
理事長 岡田 次弘



新年あけましておめでとう  
ございます。

組合員各位におかれまして  
は、益々ご清栄のこととお慶  
び申し上げます。

また、平素は組合活動にご  
理解を賜り、多大なるご支援  
とご尽力をいただき、誠にあり  
がとうございます。

同時に、近畿経済産業局、和  
歌山県商工労働部、伊都振興  
局、橋本市、和歌山県中小企業  
団体中央会をはじめとする関  
係機関の皆様には、高野口産地  
の発展のために様々なお力添  
えを賜り、深く感謝申し上げ  
ます。

さて、私たちの高野口産地  
は、明治十年に前田安助氏が  
再織を創案されたことに始ま  
り、時代とともに形を変えな  
がら現在に至り、今年で百四  
十九年目を迎えます。紀州纖  
維工業協同組合も、昭和初期  
からの生産機械の導入により  
著しい拡張を遂げる産地の中  
で、昭和二十五年に設立され、  
今年で七十六年目を迎える組  
合組織です。

しかし、このように長い歴史  
を持つ繊維産地でありながら、  
国内外ではあまり知られてい  
ないのが現実です。  
組合活動としては、産地の認  
知度向上を目指し、平成十六年



## 手を尽くしてKOYAGUCHI ブランドを進めていく

から東京にて高野口産地単独  
の生地展示会「ふわふわ」を二  
十一年間継続してまいりました。  
この活動により、一定数の  
高野口産地ファンを獲得する  
ことはできましたが、劇的な増  
加には至っておりません。

日本で唯一のパイル生地生産  
地であり、パイル製造機の基本  
四機種（織物・丸編・経編・スラ  
イバーニット）がすべて地域内  
に揃っていることを考慮すべ  
ば、世界でも唯一の産地と言っ  
ても過言ではありません。そ  
のような高野口産地の存在が  
広く知られていないのは、なぜ  
なのでしょう。

この問題については、長年に  
わたり様々な議論が繰り返さ  
れてきましたが、結局のところ  
、製造品が多岐にわたってい  
るため、統一的な発信が難しい  
とされてきました。実際、高野  
口産地から生み出される生地  
は、衣料・寝具・インテリア・玩  
具・産業資材・車両・生活雑貨・  
介護用品・電子部品など多岐  
にわたります。今治タオルのよう  
に一点に集約することができま  
せん。

そのような状況の中、昨年  
度より橋本市のご支援を受け  
、株式会社博報堂プロダクツ  
様のご指導のもと、高野口産地  
ブランドの再構築に取り組ん  
でまいりました。

この活動を進めるにあたり、  
「それは無理だ」という意見  
も多くありました。しかし私  
は、組合員三十九社が、明確な  
定義づけのない高野口産地に  
ついて、それぞれの考え方で三  
十九通りの情報を発信してい  
る現状に問題があると強く感  
じていました。まずは、関与す  
るすべての人員が同じ考えの  
もと、同じ内容を発信しなけ  
れば、決して広まらないと確

信しています。  
この取組に関しては昨年何  
度も会議を重ねました。特に  
十月二十一日には「SENDA  
YAMA」にて、九時から十八時  
までブランドワークショップを  
開催し、三グループに分かれ  
ブランドコンセプトについて真  
剣に議論していただきました。  
この活動は、調査から決定ま  
でかなりの時間を要しますが、  
最終的にはブランドコンセ  
プトおよびブランドロゴを決定  
し、ブランドブックを作成して  
いきます。ブランドブックには  
これらすべてを記載し、全組合  
員に配布する予定です。まだ参  
加されていない組合員の皆様  
ぜひご参加いただき、その思い  
をブランドブックに刻んでく  
ださい。お待ちしております。

十三点、昨年は橋本市の平木市  
長のご提案により、地域の名産  
品である柿の色をテーマとし  
たオレンジで、十二社合計三十  
四点の生地が展示されました。  
これら六十数点の生地につ  
いて、製造に関して業者間で事  
前の打ち合わせは一切行われ  
ていませんでしたが、表情・素  
材・組織・風合いのいずれにお  
いても、同じような生地は一枚  
もありませんでした。  
私も一昨年は偶然だと思っ  
ていましたが、昨年の展示品を  
見て、これは奇跡だと感じまし  
た。これは当然、他産地では決  
してあり得ないことです。これ  
こそが高野口産地の縮図であ  
り、前項で述べたように一点に  
集約できない部分こそが、高野  
口産地の最大の強みなのです。  
その強みを生かした発信を  
全員で行い、五年後、十年後の  
未来を自分たちの手で描いて  
いきましょう！  
以下ブランドコンセプトの一  
部分です。  
繊維を操る魔法使いが住む  
まち。高野口  
高野口の繊維職人が匠の技  
を使って様々な商品を生み  
出す。人々は驚き、感嘆の声  
を上げる。  
それはまさに魔法使いの杖  
をみているかのよう……  
最後になりましたが、組合員  
各位ならびに産地をお支えい  
ただいているすべての皆様  
のご健勝とご多幸を心よりお祈  
り申し上げ、新年のご挨拶とさ  
せていただきます。



KOYA • GUCHI  
PILE FABRIC

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### 令和7年展示会概要

高野口パイルファブリック展 -ふわふわ21-				第2回Tokyo Textile Scope(TTS)Autum/Winter			
開催地	東京・表参道 LA COLLEZIONE UNO	開催地	東京都立産業貿易センター浜松町館	開催地	東京都立産業貿易センター浜松町館	開催地	東京都立産業貿易センター浜松町館
期間	10月1日・2日	期間	11月12日～14日	期間	11月12日～14日	期間	11月12日～14日
来場者数	309人	来場者数	11,675人	来場者数	11,675人	来場者数	11,675人
出展組合員数	12社 内組合員10社 産地内染工場2社	出展組合員数	5社	出展組合員数	5社	出展組合員数	5社
サンプルオーダー数 217件/1,156点				サンプルオーダー数 122件/454点			



厳しい環境を乗り越え、未来へ挑む高野口パイル

和歌山県 知事 宮崎 泉



明けましておめでとうござい  
ます。紀州繊維工業協同組  
合及び組合員の皆様には、お  
健やかに新春をお迎えのこと  
とお喜び申し上げます。

昨年は、円安による輸出の  
追い風がある一方で、国内消  
費は伸び悩み、さらに米国の  
トランプ関税の影響も懸念さ  
れるなど、県内中小企業を取  
り巻く経営環境は依然として  
不透明な一年となりました。  
また、資源価格や原材料費の  
高止まりに加え、人手不足や  
人件費の上昇、物流コストの  
増大など、企業経営を圧迫す

る要因が重なり、多くの事業  
者にとって厳しい局面が続い  
た一年でもありました。

繊維・アパレル産業におい  
ては、サステナビリティの進  
展により、環境に配慮した素  
材開発やリサイクル技術の導  
入が加速し、「持続可能性」が  
国際的な取引条件として欠か  
せない要素となっています。  
また、生産現場を支える人材  
の確保・育成が大きな課題と  
なっており、熟練の技術をい  
かに次世代へ継承するかが問  
われています。さらに、国際  
情勢の変化や物流の混乱など  
により、原材料調達をはじめ  
としたサプライチェーンの再  
構築が求められるなど、繊維  
業界を取り巻く環境は一層厳  
しさを増しています。持続可  
能性を重視したもののづくりへ  
の転換と国際的な競争力の確  
保に向けた取組がこれまで以  
上に重要となると思います。  
このような状況の中、貴組

新年の挨拶

橋本市長 平木 哲朗



新年あけましておめでとう  
ございます。

紀州繊維工業協同組合並び  
に組合員の皆様におかれまし  
ては、平素より市政各般にわ  
たり、多大なるご支援、ご協  
力を賜り、とりわけ産業振興  
に熱意ある取り組みをいただ  
き厚く御礼申し上げます。

さて、国内外の繊維業界を  
取り巻く環境は大きな変化の  
中にあります。技術革新や環  
境への配慮、国際競争の激化  
など、多くの課題が山積する  
状況において、皆様が守り続  
ける伝統の技術を礎として、  
着実に未来へ向けた挑戦を続

合におかれましては、日本の  
素材総合展「東京テキスタイル  
スコープ」に出展されると  
ともに、東京・南青山におい  
て二十一回目となる「高野口  
パイルファブリック展」がわ  
ぶわ」を開催されるなど、  
新たな販路開拓に積極的  
に取組まれました。また、地  
元の高野口において展示販売  
会「高野口パイル感謝祭」を  
開催され、地域住民に向けて  
の地場産業としての魅力を発  
信されるとともに、「二〇二五  
大阪・関西万博」のテーマ  
ウィークである和歌山「Mez  
e」において、「高野口パイル」  
のブランドを国内外に発信さ  
れるなど、貴組合の積極的な  
取組を大変心強く感じており  
ます。

本県におきましても、貴組  
合をはじめとした県内事業者  
の取組を支援すべく、皆様  
が直面する課題を乗り越え、  
飛躍いただけるよう各種支援  
策を実施しております。まず、  
目まぐるしく進展するデジ  
タル化への取組として、機運

とで、次世代の地場産業とし  
てのさらなる発展を目指し  
ていただくことを祈念してい  
ます。

また、昨年は「二〇二五大阪・  
関西万博」に出展され、多くの  
方々に「高野口パイル」の魅  
力を直接知っていただく絶好  
の機会となりました。出展で  
は、伝統の技術を体感してい  
ただく「再織体験会」も実施  
し、来場者に歴史ある技術の  
一端を知っていただく契機と  
なりました。

併せて、高野口駅周辺でも  
「高野口パイル感謝祭」を初  
開催され、地元の方々にパ  
イルの良さを体感していただ  
きました。

さらに、首都圏では「高野  
口パイルファブリック展」を  
コロナ禍後三年連続対面で開  
催し、商談の場として活用す  
るほか、新素材を積極的に紹  
介する機会となりました。こ  
の展示会は年を重ねること  
に、この地域が持つ産業技術

成から各企業の現状把握、各  
種講習等による技術の習得、  
専門家派遣等による導入支援  
まで一貫した支援を行って  
います。その他にも、新商品開  
発等を支援する「わかやま元  
気ファンド事業」や国内外へ  
の販路開拓に向けた展示会へ  
の集団出展、個別出展への補  
助金など、様々なニーズに対  
応した支援策を用意していま  
す。今後も、産業界の動向を  
的確にとらえ、現場に寄り添  
った支援を一層充実させてま  
いります。

結びに、紀州繊維工業協同  
組合及び組合員の皆様の今後  
ますますの御発展を祈念いた  
しまして、新春の御挨拶とい  
たします。

の可能性を広げる非常に有意  
義な場となっております。今  
後もこの展示会をさらに充実  
させ、国内外のマーケットと  
のつながりを一層強化される  
ことを期待しております。

紀州繊維工業協同組合の皆  
様が築き上げてきた数々の取  
組は、それ自体が地域の  
活性化に大きく貢献していま  
す。本市としましても、その  
活動がより大きな成果を上げ  
られるよう、皆様と力を合わ  
せ、地場産業の発展に取り組  
んでまいります。

結びに、紀州繊維工業協同  
組合のますますのご発展と、  
組合員の皆様のご健勝を心よ  
りお祈り申し上げ、新年のご  
挨拶とさせていただきます。



大阪・関西万博の成果を継承し、新たな時代へ

和歌山県 万博推進担当参事 中瀬 雅夫



新年あけましておめでとう  
ございます。紀州繊維工業協  
同組合並びに組合員の皆さま  
におかれましては、平素より  
行政にご理解とご協力をいた  
だいておりますこと、また、二  
〇二五年日本国際博覧会（大  
阪・関西万博）において多大な  
ご協力を賜りましたこと、  
厚く御礼申し上げます。

このたびの新たな和歌山県  
総合計画において、「人口減少・  
超高齢化」や「地球温暖化」、  
「デジタル活用加速化」など、  
社会の潮流に適応するための

「鍵」となる五つの視点が掲げ  
られています。このことは本県  
のみならず日本全体が直面し  
ている課題とも言える中、昨年  
四月から半年間にわたり、「い  
のち輝く未来社会のデザイン」  
をテーマに大阪・関西万博が開  
催され、国内外からの参加者  
に多くの感動を与えました。

今回の万博では、大阪だけ  
でなく関西全体が元気になる  
よう、関西の九府県が合同で  
関西パビリオンを出展、本県も  
その中に和歌山ゾーンを開設  
し、岸本前知事が掲げられた  
「県民総参加の万博にしたい」  
との想いを引き継ぎ、和歌山が  
誇る本県の多様な魅力を国内  
外に発信しました。

や、九月十四日に関西パビリ  
オン多目的エリアで開催した伊  
都振興局エリアの地域魅力発  
信イベントに、貴組合の皆さん  
にブース出展いただきました。  
また七月十四日には、海外メ  
ディアや訪日旅行会社のス  
タッフを対象としたファムツ  
アーを実施し、パイル織物資  
料館において、高野口パイルの  
歴史や製法の見学・再織体験を  
いただいたところです。

おかげさまで、和歌山ゾ  
ンについては、目標とした三十  
万人を超える四十七万人の皆  
さんにご来場いただき、和歌山  
が誇る世界遺産をはじめ豊富  
な観光資源や県内の地場産業  
の魅力を国内外に発信できた  
ものと考えております。

合計画においても、二〇四〇  
年に実現したい和歌山の将来  
像に向け、政策の六つの柱が掲  
げられていますが、繊維産業を  
はじめものづくり産業にとっ  
て、「海外の活力を取り込む」  
「人への投資を強化する」「産  
業の創造力と生産性を高める」  
ことが重要であり、皆さんと  
ともに一丸となってアクション  
プランに取り組みしていきたい  
と思います。

このようなオール和歌山の  
取組で、大阪・関西万博を一過  
性のイベントに終わらせるの  
ではなく、その経済効果を將  
来にわたり最大限波及させら  
れるよう、観光誘客の促進や  
ビジネス機会の創出、国内外  
の企業・学校等との交流促進に  
なげてまいります。

結びに、貴組合並びに組合  
員の皆さまの今後ますますの  
活躍と、本県の繊維産地とし  
ての更なる発展を祈念いたし  
まして、年頭のご挨拶とさせ  
ていただきます。

高野口パイルファブリック展「わぶわ21」



実行委員長 井脇 義隆



令和7年10月1日(水)・2日(木)の2日間、東京・表参道の「LA COLLEZIONE UNO」において、第21回目となる産地単独展示会「高野口パイルファブリック展「わぶわ21」」を開催しました。

参加企業は元請企業10社（青野パイル(株)、井脇織物(株)、(株)岡田織物、杉村繊維工業(株)、妙中パイル織物(株)、(株)中矢パイル、(株)日本ハイパイル、野上織物(株)、松岡織物(株)、ヤマシタパイル(有)）と、産地内染工場2社（(株)木下染工場、東陽染業(株)）の合計12社が集まり、今年も「オール高野口」での開催となりました。

今年のテーマカラーは、地元・橋本市の特産品である「柿」にちなんだオレンジ。各社がテーマカラーを取り入れた生地を持ち寄り、30点以上の多彩な展示が並びました。事前の打ち合わせは特に行っていなかったものの、それぞれの企業が持つ技術や個性が自然と表れ、当産地が提供できる生地の幅広さを来場者に示す場となりました。来場者数も年々増加傾向にあり、今年は2日間で303名の方にご来場いただきました。

今回の展示会で頂いたご意見や反響を今後のものづくり等にしっかりと反映させてまいります。次回以降も、出展者・来場者の双方が「来てよかった」と心から感じられる、より価値のある展示会となるよう、産地一丸となって準備を進めてまいりますので、引き続きご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご来場いただいた皆様、またご協力いただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。





組合員の皆さま方とともに

日本政策金融公庫和歌山支店  
支店長 加藤 卓



令和八年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

紀州繊維工業協同組合並びに組合員の皆さま方におかれましては、平素から当公庫に格別のご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を顧みますと、長引く物価の高騰や賃金の上昇、人手不足、そして米国の関税措置による影響など、皆さま方にとりまして、多くの課題に向き合われた一年だったことと存じます。このような状況下においても、たゆまぬ努力

によって、地域経済を力強く支えてこられた皆さま方に、心より敬意を表します。

繊維業界は今、安さよりも品質や環境への配慮が重視される時代になっております。世界的に需要は安定していると言われていますが、原材料高騰や人手不足などの多くの課題に直面されています。一方で、リサイクル素材・機能性繊維・デジタル化など、新しい分野へのチャンスの芽も出てきています。

このような状況の中、皆さま方が牽引されている高野口パイル産地は、単に地域の繊維業を維持するだけでなく、「国内唯一の総合パイルファブリック産地」として、専門性と差別化を確立されております。また、繊維産業の中でも高度なニッチ・機能系用途にしっかりとシフトされ、地域産業の生き残りモデルの一つとしても大変興味深いもの

和歌山繊維産業発展のためのコラボ提言

和歌山ニット商工業協同組合  
理事長 山下 智弘



新年あけましておめでとうございます。

紀州繊維工業協同組合の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、和歌山ニットと高野口パイルは、その歴史、風土、技術において、実に多くの共通点を持つ産地です。いずれも江戸時代を源流とし、綿花の栽培に適した気候、豊富な紀ノ川の水資源など、自然条件に恵まれた地域で発展してきました。さらに、職人たちの磨き抜かれた匠の技と、伝統を守りながらも新

たな挑戦を続ける精神が、今の産地を支えています。

和歌山ニットは、「素肌に優しい柔らかさ」「高い伸縮性」「軽やかな着心地」といった特長を備え、着る人に安心感を与える製品づくりを続けてきました。近年は、消費者の価値観が「量」から「質」へ、「機能」から「物語性・付加価値」へと変化するなかで、和歌山ニットは「長く着続けていただける製品づくり」「環境負荷の少ない素材開発」「持続可能な社会への貢献」に力を入れています。

また、商品企画から製品化までを一貫通で行う体制を強みに、顧客ファーストの姿勢を貫き、全国シェアNo.1のニット産地として世界にも販路を広げています。

一方、高野口パイルも、世界の名だたるハイブランドから注文が絶えず、長年にわたってここにしかない独自の風合いと高い機能性を備えた生地を



になっております。

産地内部で「織る・編む・仕上げる」という技術層が揃い、分業体制が整っておられることは、まさに産地の強味です。今後は地域産地として、如何に付加価値化・技術革新・用途多様化を推進されていくかが期待されます。

こうした動きが、新たなビジネスチャンスにつながることを願うとともに、皆さま方が業界のさらなる発展・地域

生み出しています。

多彩な製法を駆使し、立体的な織物構造による伸縮性、摩擦への強さ、そしてやわらかな肌触りが特長で、ファッションやインテリアなど多様な分野で高い評価を得られています。又、全ての生産工程を同一産地内で完結できる体制を持ち、地域全体で品質を支える仕組みが息づいています。

しかし、両産地ともに共通の課題を抱えています。技術継承者の不足、資材価格の高騰、設備の老朽化、後継者難など、持続的発展を阻む要因が顕在化しています。

こうしたなかで、和歌山ニットと高野口パイルが連携し、互いの強みを活かしたコラボレーションを進めることは、極めて重要と考えています。

例えば、共同でのプロモーション活動や展示会への出展、観光との連携、若手人材や職人の育成、脱炭素対応やDX化、スマートファクトリー化を見据えた設備投資の促進に向けた行政支援の働きかけなど、産地

活性化の牽引役として、ますます活躍されますことをご期待申し上げます。

私ども日本政策金融公庫におきましては、事業者の皆様からのご融資、条件変更などのご相談に対し、引き続き、きめ細やかに対応していくことはもちろんのこと、様々な機会において組合の案内を行い、組合組織の活性化にも協力してまいります。

また、後継者不在の事業者を創業者や事業拡大を図る企業と引き合わせる「事業承継マッチング支援」や各分野の専門家を講師に招いた「各種セミナー」の開催など、皆さま方を取り巻く経営課題の解決に役立つ情報発信にもより一層力を入れてまいりますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さま方にとって実り多く、そして何より商売繁盛の一年となりますことを祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

横断的な取り組みを強化していく必要があります。

これらの活動を通じて、  
① 地域雇用の維持・拡大  
② 地場産業の継承と活性化  
③ 地域ブランドの国内外での認知向上  
④ 脱炭素社会・持続可能な産業構造への転換  
といった効果が期待されます。昨年開催された貴組合の「ふわふわ展」の盛況が示すように、地域の魅力を発信する展示会やイベントは、産地の価値を再発見し、新たなビジネスチャンスを生み出す場となります。

和歌山ニットとしても今後、展示会や発信活動をさらに強化し、高野口パイルとの連携を深めながら、伝統と革新が共存する和歌山の繊維産地が、次の世代にも誇れる地域ブランドとして、世界に羽ばたく一年となることを願っております。

新年のご挨拶と、産学協働事業がつなぐ未来へ

学校法人ミクニ学園 大阪文化服装学院  
理事長 豊田 晃敏



新年明けましておめでとうございます。  
紀州繊維工業協同組合及び組合企業のおかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。  
皆様には、日頃から「職業実践教育」へのご理解を賜り、服飾専門学生を迎え入れ、産地の歴史的背景、素材的特徴、各社様の製品のこと、その生産・品質にまつわるノウハウについて、惜しみない共有とご指導を賜りまして心より御礼申し上げます。この度、当校と貴組合、組合企業様との「継続的な協業」をご評価賜り、貴重な紙面を割き年始のご挨拶の機会を頂戴しましたこと、心より御礼申し上げます。

手前みそではございますが、今でこそ大阪にキャンパスを構える「地の利」を活かし、貴所を筆頭に、尾州（毛織物）、西脇（播州）、泉州や和歌山（ニット）、福山（デニム）など様々な産地と積極的に産地連携を行う当校ではございますが、私が4年半前に入職した頃は、手薄な状態で他校に対しても大きな遅れをとっておりました。実に恥ずかしい話ですが、これら産地の中で唯一「産地」として知らなかつたのが高野口でした。欧州で動物愛護観点から「エコファーへのスイッチ」というニュースが話題となった当時、「高野口のメーカーがハイブランドのオーダーを獲得している」という話を聞き、最初にドアを叩いたのが貴組合でした。「協業提案書」を片手に飛び込んだ我々を温かく迎えて下さり、ご支援を即決下さった組合の西様、福岡様、そして組合理事長の妙中様（当時、現・妙中パイル織物株式会社会長）への御恩は忘れるものではございません。

早いものであれから5年連続・年2回の訪問を通じ、既に約100名の学生が高野口を訪問し、「再織り」「パイル」を学び、生地に触れ、実際に売買取引も行い、作品や商品を作製する実践の場として最適環境をご提供頂いております。一方で、この恵まれた環境は当たり前「継続していくもの」と信じる気持ちとは裏腹に、各産地拠点で聞かれるトレンドは、いずれも「維持」或いは「昨年より苦戦」であり、噂半分に聞いたとしても楽観すべき状況に無いことを実感します。そのような中、今は甘えることしか出来ない学生たちに対し、「未来への必要な投資」として、寛大なお気持ちで接し、施して下さる皆様の愛情に感謝は尽きません。

当校から羽ばたく卒業生が「デザインの力」で一日も早くお仕事で還元し、地域創生や産業振興に貢献すること。私が学生たちを連れて産地にお邪魔する目的は、彼らの成長と同じぐらい、「産地の未来が自分たちに託されていること」を感じて欲しい、「思い」が循環していく未来に期待を持ちたい、という勝手な「願い」が込められていると言っても過言ではございません。日本のアパレル企業がデザインやブランディング、製品のグローバル展開で欧米に致命的な遅れをとる一方で、世界から認められ、羨望の眼差しが注がれる日本の「素材」「テキスタイル」。製品を遥かに上回るこの「認知」こそが最強の財産です。その為に、次世代にこの資産を残し、繋いでいく「継承」に加え「国内外認知の強化」が喫緊のミッションだとしたとき、我々に何ができるのか。「デザイン」の持つ力を掛け合わせ、連携事業の価値を最大化してまいりたい、それが本分である、と考えております。引き続き皆様からのご指導・ご鞭撻を賜りますよう伏してお願ひ申し上げますと共に、甚だ乱文ではございますが私の年始のご挨拶とさせていただきます。有難うございました。

Tokyo Textile Scope 参加



実行委員長 青野 三喜雄

第2回Tokyo Textile Scope (TTS) Autumn/Winterが浜松町の東京都立産業貿易センターで2025年11月12日～14日（3日間）まで開催されました。昨年までは、有楽町の国際フォーラムにて2日間の開催でした。

国際フォーラムでの開催は、1フロアに全出展者がそろいましたが、今回は2階から5階までの4フロアに分かれ、出展社数は281社で219小間でした。

当組合は、高野口パイルファブリックとして青野パイル（株）、妙中パイル織物（株）、（株）日本ハイパイル、野上織物（株）、ヤマシタパイル（有）の5社が出展しました。

展示会前日は、例年通り設営後の懇親会が行われ、高野口産地として結束力の高さを確認できました。会期中は席を外しているブースに来場者が来れば、誰となく対応し、また自社で生産できない物は、他社へ紹介するなどここでも高野口産地の一体性が発揮されていました。これも継続出展の成果だと思います。

結果として我々のブースには大勢の方に来場していただき、サンプルオーダー122件454点と盛況な展示会となりました。

また、他のブースを見回ることにより最新の市場動向や技術トレンドを肌で感じる事ができ、今後の企画・提案に向けたヒントを得られました。

今回の経験を糧に、さらに展示内容を磨き上げ、次回の展示会ではより多くの来場者と成果を残せるよう努めてまいります。

余談ですが、東京での展示会の良さは新規顧客開拓はもちろんですが、従来の客先もブースを訪問いただき非常に効率よく商談できることです。

舞台を移して初の展示会を無事終えることができたことに関係者の皆様へ感謝申し上げます。



主なイベント

四月

■四月六日(日)  
桜まつり

高野口パイル資料館前において、パイル製品即売会及び再織手織体験を実施。地域住民へ産地PRを行った。

■四月三十日(水)～五月三日(土)  
大阪・関西万博

大阪・関西万博内EXPOメッセ「WASSE」において和歌山県のイベントとして「Wow!Wakayama」未来へつなぐ、おどろきの国」が開催され、当組合員が製造する製品の販売を行い、来場した国内外老若男女へ産地PRを行った。



六月

■六月七日(土)  
はしもとマルシェ

橋本市市民会館横駐車場において、パイル製品即売会及び再織手織体験を実施。地域住民へ産地PRを行った。



■六月十二日(木)  
織物故功労者慰霊祭

当産地織維業界物故功労者の御霊を慰霊し、業界の活性化・発展を祈る。 於高野口公園

■六月十二日(木)

令和七年度通常総会  
全議案原案通り可決。

七月

■七月九日(水)

勉強会  
「カーボンニュートラルを経営に活かすCO2排出と経営指標」  
一般社団法人中部産業連盟  
エネルギー管理士 中小企業診断士 梶川達也氏



八月

■八月二十七日(水)

勉強会  
「ウールについて」

日本毛織株式会社 衣料繊維事業本部 マーケティング部  
田先慶多氏 坂本奈都子氏



九月

■九月十四日(日)

大阪・関西万博  
大阪・関西万博内関西パビリオン多目的エリアにおいて開催されたイベントにて、再織手織体験を実施し、多数の来場者に産地PRを行った。



十月

■十月一日(水)・二日(木)  
高野口パイルフェアブリック展  
—ぶわぶわ21—開催

東京・表参道の「La Collezione UNO」において、第二十一回目となる産地単独展示会を実施。



■十月十二日(日)

高野口パイル感謝祭  
地域住民に地場産業である高野口のパイル織・編物を周知するため組合としては初めてのなる地域住民向けイベントを組合前市営駐車場にて実施した。



十一月

■十一月一日(土)・二日(日)

販売イベント  
くしがきの里において、組合員七社による製品販売イベントを実施。



■十月二十七日(月)

勉強会  
「製品単位のCO2排出量算定ワークシヨップ」地域産業の脱炭素ブランド化に向けて」  
一般社団法人サステナブル経営推進機構 岡山オフィス  
所長 仲井俊文氏



■十一月十二日(水)～十四日(金)  
Tokyo Textile Scope 2026  
A/W 出展

東京・浜松町の「東京都立産業貿易センター」において開催された本展示会に、当組合から五社が出展した。



十二月

■十二月三日(水)～九日(火)

あべのハルカス  
ポップアップイベント  
高野口パイルの技術とアイデアを活かした魅力ある商品を周知するため、販売を実施。



ちょっとひといき



「曖昧パイル」

安部 光弘



「私は今、安全なところを確保しそこから中継しております」

最近の台風や災害時のテレビ放送である。昔は傘がひっくり返って飛ばされそうにずぶ濡れのリアルな映像をよく見たものだ。大変良いことだと思う。

横断歩道を渡ろうとする歩行者がいる場合、車は一時停止する義務があるが、最近では、その取り締まりが強化されている。安全講習でもそのビデオを見た。自転車の身勝手な運転も取り締まりがだんだん厳しくなっている。大変正しいことだ。ながら運転の厳格化に向けての明文化も遅まきながら進んでいるようだ。

ネットの世界は、潔癖な勧善懲悪で、間違った行動は即座に匿名で批判される。それが大きな渦となって世論の中心となり、匿名の人たちは勝ち誇る。これも間違っていないのだからいいのだろう。

一方、この一見安全な分かりやすい世界に住んでいると、守られている幻想から自分を防衛する、自分で自分を守る耐性が劣ってきているのでは、と思うこともある。

災害の国の日本で安全なところなんて無いに等しいし、信号が青で渡っていても車が突っ込むこともあるだろうし、真面目に生きていても恐ろしい被害に遭うこともある。理論が間違っている話を聞かない、ごり押し人間はそこらじゅうにいる。便利になっても人は変わらない。本当に自分を守ってくれる人や組織なんて簡単には無いのだ。

SNSは便利なツールに見えて、実は表面的なものも多い。美味しい料理より、美味しく見える料理の絵が欲しい。楽しくなくても楽しく見えるスナップ写真があればいい。楽しい人生を見せるお遊びに終始する。ネットは、簡単に幸せいっぱい清潔で見えても市井のくらしは違う。思っているほど他人は幸せでないのだから安心しよ

う。また煽情的な原理をかざしても、話し合いで理解し合うには、面倒な長い時間を必要とする。やり取りの時間が何度もあって、やがて理解は深められる。或いはどちらかが良くて相手が絶対に悪いなんてことも世の中にはそれほどなく、ほとんどの事柄は曖昧なものばかりだ。気持ちよく水戸黄門の印籠で即解決にはならない。

ネットの過激な発言は、コンビニ定員に土下座を強要する姿にダブって見える。そんな行動を批判しているはずなのに。楽しいことだってそんなにあるはずがなく、大体面白くない中で生きている。それは不幸せではなく平凡で幸せな生活なのです。

本当に教える、或いは肝に銘ずるべきはボヤっと生きる暮らしぶりです。なぜ、ネットに書かれないのか。書けるようなことでは無いからです。長い文章になるだろうし、長い文はネットでは喜ばれない。だから結論ボヤっと生きればいい。また話を一方的じゃなく視点を変えるクセ、または行間を読む人間くさい生き方です。

さて、パイルの業界は、そろそろ限界、業種転換が必要など外野から声が聞こえます。ものづくりはアジアへ移管され、繊維製造業の衰退が言われています。流れはそっちにあるのでしょうか、やり方はまだあります。

開発の基本はパソコンで処理するものではなくボヤっとしていないとできない。AIの人を超える、或いは即座に答えが出てくる恐怖もあるが、きっとAIはボヤっとできないから開発はできない!と信じたい。どうなのでしょうが…怖いのでAIには聞いておりません。

素材開発、昔は一つの開発に1万mの受注、ならば今の時代では10の開発で1万m、ロットの小さい受注に、より多くの開発に人と時間をかける。販売手法は今では、目に見えないネット通販、特化したルートでのネット販売、クラウドファンディングの特殊性、今もロットは少なく、10倍のルートに仕掛けて同じ受注量です。新たな努力が必要なのです。

安全な経営なんて、どの業種にもどの規模の会社にもありません。幸い私たちは小さな組織です。ちょっとしたヒントで業績のV字回復が期待できます。とネットでそんな風な文章を見かけても、そんなに簡単にはいきませんが。